

多すぎた札束

飯沢匡政治喜劇三部作



飯 沢 匡 (いいざわ ただす)

1909年 東京に生まれる

主な作品 「飯沢匡狂言集」(未来社), 「飯沢匡喜劇集」(全六巻, 未来社), 「二人で嘘を」(新潮社), 評論「反骨の絵師・歌川国芳」(筑摩書房), 「乞食円空」(同), 「脱俗の画家・横井弘三の生涯」(同), 「武器としての笑い」(岩波書店), 「現代漫画家列伝」(創樹社), 小説に「帽子と鉢巻」(光文社), 「紙・石・鉄」(角川書店), 「飯沢匡風刺小説集」(立風書房), 「どうもピンボケ」(新日本出版社) などがある。

多すぎた札束——飯沢匡政治喜劇三部作

1981年9月30日 初 版

定価 1000円

著 者 飯 沢 匡
発 行 者 松 宮 龍 起

郵便番号 151 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-8

発 行 所 株式会社 新日本出版社

電 話 東京(478) 3311

振替番号 東京3-13681

印刷 光陽印刷 製本 小泉製本

落丁・乱丁本がありましたらおとりかえいたします。

本書の内容の一部または全体を無断で複写複製(コピー)して配布することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版社の権利の侵害になります。小社あて事前に承諾をお求めください。

束札が多すぎた

飯沢匡政治喜劇三部作

新日本出版社

多すぎた札束

——飯沢匡政治喜劇三部作——

多すぎた札束

(コメディ的記)

四幕

作 演出／飯沢 匡

原案／山下 龍雄 脚／山田隆雄 監修／山田隆雄
演出助手／山田隆雄 演出助手／山田隆雄
演出助手／山田隆雄 演出助手／山田隆雄

2月15日(祝) 21日(例)俳優座劇場

2月23日(例)厚生年金会館

小ホール

入場料：全席 1,000円 指定席 800円 一般席 500円
学生・児童 半額 1,000円 指定席 600円 一般席 400円
小ホール 入場料：全席 500円 指定席 300円 一般席 200円
学生・児童 半額 250円 指定席 150円 一般席 100円

第19回公演 青年劇場

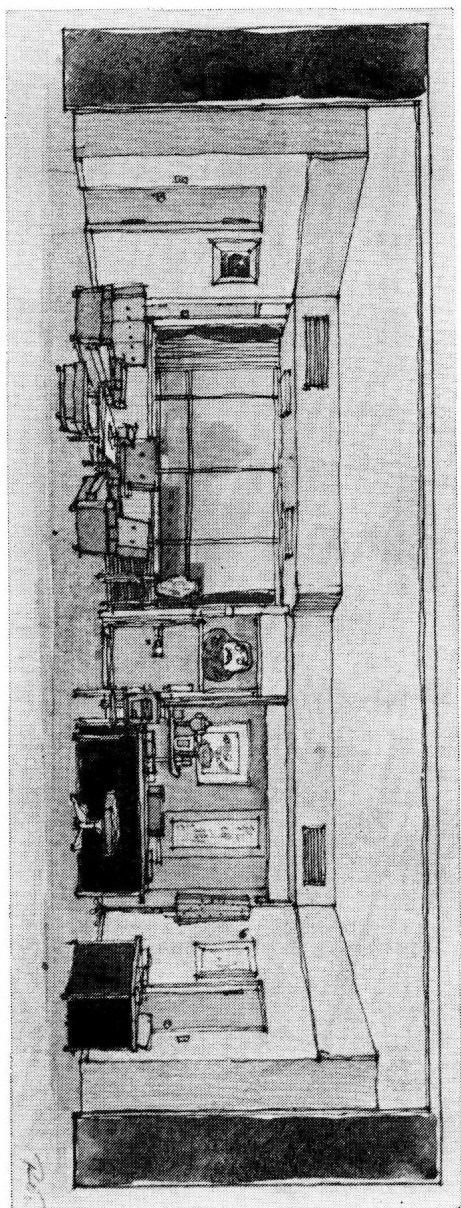
金権政治家 棚岡格兵衛をやっつける
爆笑喜劇!!

「多すぎた札束」 四幕



(原画 山藤章二 レイアウト 下条 守)

舞台裝置圖



登場人物

棚岡格兵衛（政党の領袖）

牧村みどり（棚岡の情人・クインと呼ばれる女）

笹野ふみ子（格兵衛の一人娘）

笹野 円了（ふみ子の夫・女子大学教授）

佐川 （格兵衛の秘書）

北村 さよ（待合のおかみ）

北村はつえ（さよの孫娘）

古沢 格治（ガソリンスタンドの持主）

森 （若い女事務員）

遠山 （選挙事務長）

三宅 （登山姿の少年）

若い男

中年の男

金をもらいにきた使者

事務員（男）

事務員

会計部長

幕が上る前、スピーカーから、次の口上が流れる。

声（ある特定の人物の声色でやること）

やあ、みなさん、今日はよく来て下さいました。有難くお礼申し上げます。何てすな、これから始まるこの芝居ですかね。やっぱり、この見物人というものはすな、芝居の中から真実の話を何とかして掘り出そうとするもんですな。しかしね、芝居はとこまでも芝居してね。この芝居か特別の政党の、特別の人間のことを描いたもののように思われては、それは大変迷惑だと申し上げておきますよ。まあ、いろいろ想像なさるのはね、見物人の御勝手ですかね。少しばかり似ているからといって尻を持込まれてもね、当方としては関知しないことだとね、重ねて申し上げておきます。なおですね、これは、あの有名な、みなさんもよく御承知のロノキード事件、あれか起るずっと前のこと、という時代設定にしていることも、つけ加えておきたいと思います。では、ごゆっくり、お楽しみ下さい。では、失礼いたします。

全幕を通して格兵衛の事務所の一室。

上手は、みどりの室に通ずる戸口。

下手に会議室と、廊下に通ずる二つの戸口。

正面下手より大きな窓。そこから国会議事堂の塔が近くに見えている。木の緑は、四季の移り変りを現わす。

大きな事務机。応接用のセノト。机の背後に床の間と飾棚、大金庫があり、贈物の装飾品やゴルフのトロフィーなど。床の間にも大家の筆になる「乾坤一擲」の懸軸。しかし総て貴いものなので、部屋の空気には、統一された感覚はない。

第一幕

春の夕。赤々と夕焼けが議事堂の塔に当たっている。ソファーに、女将、北村さよが、ちよこんと坐っている。戸外からは、総選挙の候補者の声か「よろしくお願いします」を連呼しているのが聞えて来て、選挙が^{くげな}酣なことを物語っている。上手の戸口から、クイノこと、牧村みどりが入って来る。

みどり どうもお待たせして。今ね、先生から電話ありましてね、私がお相手してろ、ってことて……。

さよ とうもすみませんですね。(と立つ) あれからすっかり御無沙汰しちゃって、御免なさいね。

みどり いいえいいえ。さあさあ、(と、座をすすめ)とう？ 御商売のほう。

さよ ええ、お陰さまで。先生たちお上^{かみ}か何しろ景気をよくして下さるから……。私ども水商売のものは、みんな有難かってますわよ。へ、へ、へ。いつぞやは、孫の就

職のことて、すっかり御世話さまになりましたて……。

みどり そうですか？ 私、知りませんけど。

さよ あらいやだ！ あなたかお口添えして下さったじゃないのよ。

みどり そうだったかしら？ まあ、おかみさんには、昔は随分と御厄介になりましたものね。

さよ そうよ。へ、へ、へ、あの頃はね、家をよく御利用下さったわね、御二人で。でも、あの頃から、私は、先生はきつと、将来大物におなりになると思ってたのよ。でも、ここまで御出世とはね。何しろ幹事長てすものね。大したものよ。もうすぐ総理大臣は、目の前よね。あなたも、いい方^{かた}をつかまえたもんね。(とつつく)

みどり 大物か何か知らないけど、もうもう、相変らすの御発展てね。

さよ まあ、あれだけの仕事をなさる方^{かた}ですもの。そりゃ、少しはね。

みどり 少しじゃないのよ。て、今日の御用向きは？ 今、御承知のように選挙でしょ？ だから……。

さよ 判ってますよ。でも、これは急ぎのことだから。

みどり そんなに急ぐことなの。なあに？

さよ (とぼけて) え？ ええ、それはね、先生に直接、

申し上げることになってますんですよ。ええ、

みどり まさか、これじゃ（と小指みせる）ないんてしょ
うね？

さよ と、とんでもない。ちがいます、ちがいます。

みどり そう。（と、まだ疑っている）。さっきの電話じゃ、
先生いやに声を弾ませて、期待してるみたいだったけ
ど……。

さよ そりゃ期待なさるでしょう。（ひとり満足気に）悪い
知らせじゃないもの。ええ。

みどり いやに気を持たせるのね、おかみさん。

さよ 何れは先生から聞かれますよ。それまで……。

みどり 大抵のことは大っぴらでもね。女のこととは別だか
ら気になるのよ。本当に、女じゃないの？

さよ ええ。誓いますよ。御恩のある、あなただもの。裏
切りませんよ。あなたのお陰で就職した孫娘、もうポー
ナスだけでも、何十万と頂けるんですからね。

みどり どこに就職したの？

さよ 信用金庫ですよ。先生の御紹介のせいか、とても先
きさんでも大切にして下さいましてね。

みどり そりゃよかったわね。

さよ ですよ。あなたをいつだって恩人と思ってるんて

すよ。孫娘にも、よくいい聞かせてますの。

みどり ても、気になるわね。ねえ、何なの？ 教えてよ。
さよ ても、これだけはね。

みどり 水臭いのね。

さよ そういうわけじゃないけど、先生と御約束ですも
の。こればかりは……。

みどり なにか選挙のこと？

さよ と、とんでもない。そんな大それたこと、田舎待合
の女将風情の私なんぞか……持つて来る筈ないてしょ。

女事務員の声が戸の外でして

事務員 笹野さま御夫妻かお見えですか……。

みどり ああ、そう。おかみさん、お嬢さまよ。さ、私の
部屋へ行きましょう。さ。

さよ おや、そうですか？ 御挨拶しなくていいのかし
ら？

みどり お高くて、お高くて。待合のおかみさんなんか
に、御言葉を賜るような人じゃないの。さ、さ、行きま
しょ。

さよ そう引張らないで、袖かとれちゃうわよ。

さよを引連れて去る。と入れかわりに、ふみ子と、夫が入って来る。

ふみ子 ご覧になった？

円了 え？

ふみ子 あの人の洋服よ。森ハナエ着てたわ。生意気ね。

円了 君も、少しましなイヴニングを用意したほうがいいよ。今度の旅には。

ふみ子 そう？

円了 学会の初日には、ウイルヘルミナ女王様主催のパーティーがあるそうだから。

ふみ子 カクテルドレスでいいんじゃない？

円了 ぼくもタキシード作らなくちゃならないらしいよ。

ふみ子 女かイヴニングなら当然だけど。質素な学会なんだから、ダークスーツでいいんじゃない。

円了 いや、この前のウィーンの時は、タキシードだったよ。だから僕は欠席したけどね。

ふみ子 歴史学者だけあって、保守的なのね。もっとも、あちらじゃ教授クラスは、タキシードは当然かしら？

円了 そうらしいね。

ふみ子 この際、タキシードも、お作りなさい。パパにお願いしましょう。日本の恥になるといえば、出して下さるわよ。

円了 ふ、ふ、ふ。日本の恥か！

ふみ子 パパそのものか、日本の恥といたいんでしょ。

円了 パパひとりじゃないよ。パパを支えてる社会全体かね。殆どの日本かね。

ふみ子 仕方ないわ。私はパパの娘なんだし、あなたは、私の夫なんだし……。

また宣伝カーの声。

円了 そして、日本人なんだし……(密のほうへ行く)、今度の選挙だって、きつとまたパパたちの大勝利さ。沢山お金を使って……それに買収されて国民は投票する……いつも繰り返しだね。(外を見てる)

ふみ子 ここへ来てまで、そんなこといわないで。パパに会っても、いつもみたいに仏頂面しないで頂戴！

円了 判ってる。ただ、どうしても、不満か顔に出ちゃうんたろうな。

ふみ子 にこにこしてね？ さ！ チーズ！

円了（ちょっとやって見る）難しいな。

ふみ子 その程度でいいから。

声高に、何か命令しながら、勢よく格兵衛と、佐川秘書入って来る。

格兵衛 じゃ、九月会の連中は、会議室へ集めて、待たし

ておいてくれ。すぐ行くから。

佐川 じゃ、時間ですからお食事でも出しまして

格兵衛 そうだな。例の弁当でも取って……。

秘書去る。

格兵衛 お前たち来てたのか。陣中見舞か。

ふみ子 そんなことと来るもんですか。

格兵衛 じゃ、おねだりか？

ふみ子 そうそう。今度ね、この人、ハーグへ学会で行く
んてす。

格兵衛 へえ、ハーグ。ハーグってどこだったかな。カナ

タか？

円了 いいえ、オランダです。

格兵衛 あ、そうだそうだ。ハーグ条約のハーグだな？

円了 そうです。

ふみ子 パパ、今度は、私も行くの。

格兵衛 へえ、大学で女房の分も出すというのか？ そり

ゃ、税金の無駄使いだぜ。うん。

円了 いいえ、あちらの学会で招待してくれまして……。

格兵衛 へえ、オランダって国に、そんな余裕があるのか。貧乏国のはずだがな。

ふみ子 でもね、往復の旅費は、こっち持ちなの。

格兵衛 なあんた。そうだろうと思ったよ。オランダなんて、ケチで通った国なものな。

円了 そうですね。ダンチ・アカウントといひましてね。

格兵衛 ふみ子、じゃ、その往復の旅費は、誰か出すんだ？

ふみ子 そりゃ、もちろん、パパよ。

格兵衛 冗談じゃない！ だめだめ。

ふみ子 だって、学会で奥さん連れて来ないのは日本だけで
すって。そんなこと、日本の恥でしょ？

格兵衛 まあ、ヨーロッパの国の行き来は、東京から名古屋

屋あたりまで行く気軽さだからな。

円了 そうです。極東の日本からは大ごとですか……。ま

あ、日本の地理的な位置か、運命的なわけですね。

会議室から代議士たちの笑声。

電話鳴る。

格兵衛 もしもし。うん、つなぎなさい。ああ、棚岡て

す。ああ、どうだね、情勢は？ ふん、ふん。え？ そりゃ、あんたにも似合わない弱音だな。本当かい？ いや、ちょっと頑張りや、ひと堪^たりもないさ。そんなに怖れる必要はない相手だぜ。そりゃ、過大評価だな。は、は、は、軍資金かね。考えるよ。もちろん君には勝

って貰わなくちゃならんからね。うん、うん。なにに？ うん。ならね、誰か使いの人を、明日の一番の飛行機でよこして下さい。うん、まあ、心配しなさんな。引受けたよ。じゃ、頑張つて。うんうん。(切る)

ふみ子 こちらにも、少し廻してパパ。私か行けないなんて、日本の恥よ。

格兵衛 これでいいか。(と無難作に、内ザケノトから百万円封入の封筒を出す)

ふみ子 (慣れた調子で) これ百万てしょ？

格兵衛 それ以上は、今日はない。

ふみ子 百万じゃ、飛行機賃払ったら、かつかつよ。

格兵衛 じゃ、あと二百万、佐川君に小切手、書いて貰いなさい。

ふみ子 あの人、うるさく使い途を聞くんですもの。

格兵衛 当り前だ。政治家は、金の使い途は、いつでも一目瞭然にしておかなくちゃ、いけないんだ。すぐ問題にされる。佑断もすきも、あったもんじゃないんだ。まあ娘夫婦の渡航費なら名目は立つ。(と、小切手を書く) 下らん土産物なんか買うなよ。(と渡す)

ふみ子 有難うございます。ウィルヘルミナ女王の御主催のパーティーに出席するんですもの、いいイヴニング作らなきゃならないのよ。

格兵衛 振袖着りゃいい。嫁入りのとき作ったやつ。あの、まっ赤かの……。

ふみ子 お猿さんじゃあるまいし、あんなの。パパ、どうも有難うございます。

円了 有難うございました。(行きかかる)

格兵衛 ああ、ちょっと、ちょっと、笹野君！

円了 はあ？

格兵衛 今度の学会って、何がテーマだね？

円了 ビザンチン文明の、世界に与えた影響というのですか……。

格兵衛 ビザンチンって、ナポレオンの女房か？

ふみ子 いやだパパ。あれはジョゼフィヌ。ビザンチンは千五百年前の、東ローマ帝国の文明よ。

格兵衛 千五百年前か。そりゃ古すぎる。そんなこと研究

して、今日の役に立つのかな。(ブツブツ)

ふみ子 じゃ、発つ前に、また伺うわ。

格兵衛 いつ発つんだ？

円了 来月の三日です。

格兵衛 じゃ、投票日じゃないか。忙しくて、会ってる暇

はない。来なくていいよ。

ふみ子 じゃ。(行きかかる)

格兵衛 おい、ふみ子。せめて、選挙の御成功祈ります、

ぐらい、いったらどうだ。

ふみ子 ふん。どうせ勝つに決まってるんですもの。ちっ

ともスリルがないわ。(笑いながら)

二人去る。

格兵衛 ベルを押す。みどり来る。

みどり お帰りなさい。

格兵衛 報告することないか？

みどり 軍資金の依頼ばかりでね。適当にあしらっておきました。

格兵衛 うん、もっと、せっぱつまってから、考えてやり

やいい。きゃつら、甘やかすことはないんだ。

みどり 福岡の飯島さんが珍らしく……。

格兵衛 うん、今、電話で話した。ありゃ本当らしい。明

日、飛行機で、金とりに来るそうだ。北村のおかみ、どうした？

みどり 私の部屋にいるけど、何んなんですか？

格兵衛 (笑って) お前さんには、関係のないことさ。

みどり 気になるわ。ねえ……(と色模様)

格兵衛 信用がないんだな。

みどり 当り前でしょ(と、つねる)。

格兵衛 さあさあ。連れて来てくれ。九月会の連中、会議

室に待たせてあるんだから。

みどり はいはい。

会議室から笑声など。

格兵衛、書類など見てると、さよ、入って来る。

さよ 御免下さいまし。

格兵衛 やあ、おかみさん、暫くだったな。景気はどうだね？

さよ もつもう、何から何まで先生のお陰さまですわ。方方て工事を起して下さるでしょ。だから建設関係の人も、よく遊んで下さいましてね。ほんとに、こんな上景気は珍らしいうございますわ。御座敷が空いたことか、ございませぬもの。

格兵衛 これは、まだまだ序の口でね。この日本を根本的に変えてみせるからね。どこもかも、広い道を通して、うんと便利に見せるからね。工事は、もつともっと盛んにやるよ。うんと儲かるぜ。金庫が爆発するんじゃないか？

さよ まあまあ、夢のようなお話ですこと。

格兵衛 いや、夢じゃない。すぐ現実のことになるよ。私に任せれば。うん。やって見せるとも。

さよ そうでしょ、そうでしょ。先生は実行の方だもの。何だつてバリバリやつておしまいになるんだから。大したもんですよ。いつだつてお噂しますよ、ほんとに。格兵衛 は、は、は、やっと棚岡格兵衛の真価を認めてくれたね、おかみも。あの頃は、よくケンツク喰わされたけど。

さよ お聡い。昔のことはいわないで下さいよ。先生、昔は昔。そうそう、昔といえ、今日こうして伺いましたのはね、とうとう見つけました。例の、おたのまれもの。格兵衛 ふーん、見つけたか？

さよ 見つけました。ちゃんと居ましたよ。

格兵衛 男か女か？

さよ それか男！

格兵衛 ほう（と感激）そうかね。しかし確かか？ 母親は誰だ？

さよ それか誰だと思えます？ 母親は、鶴菊ですよ。

格兵衛 ツルギク？

さよ そうです。

格兵衛 あの気の強い鶴菊か？

さよ ええ、でも気は強いけど、しっかり者でしたよ、あの子は。

格兵衛 鶴菊かね。おれの子をね。そうかな？ 誰か他のやつの子じゃないのか？ 信じられないな。

さよ いいえ、先生の子よ。その子、いま二十六ですかね、昔のあの頃の先生にそっくり。名も格治といいますてね、先生のお名前から、一字拝借してつけてありますし……。